

記事内容

- ☆第82回埼玉県中央メーデー
- ☆地域メーデー
- ☆東日本大震災救援ボランティアレポート
- ☆女性のためのSTEP UPセミナー
- ☆組織拡大集中行動
- ☆男女平等月間 / もうすぐ選挙 / 6月の行動予定表
- ☆あけぼのビル



すべての働く者の連帯で、働くことを軸とする 安心社会と自由で平和な世界をつくらう!

第82回埼玉県中央メーデー

4月29日(金)、10時よりさいたま市・鐘塚公園にて「第82回埼玉県中央メーデー」を約5,600名の参加のもと開催した。

今回のメーデーは、東日本大震災の被災地・被災者への復興支援に向けたメーデーとし、構成組織による「つなごろうNIPPON!」応援メッセージでは参加者から復興に向けた思いや決意などをアピールさせてもらった。また、加須市に避難している福島県双葉町の子どもたちを“天装戦隊ゴセイジャー”ショーに招待するとともに、風評被害を受けている茨城県産の野菜類の販売や、被災地・被災者へのカンパ活動も行った。(復興支援カンパ1,059,656円)

式典では宮本会長より、「3月11日、三陸沖を震源とする大地震により甚大な災害が発生し1ヶ月半以上が経過した。改めて、思いもよらぬ災害で人命を奪われた犠牲者の皆様へ心から哀悼の意を表すとともに、この大震災・大津波で被災されたすべての皆様に心からのお見舞いを申し上げる。

地震発生以降、駅頭や職場での義援金カンパや支援物資の協力、ボランティア派遣に、各構成組織・加盟組合・各地域協議会の皆さんからは、たいへんご協力をいただいていることに改めて感謝する。

今回、被災地と全国の間に生まれた連帯感を活かしながら、これからも連合埼玉として被災地の復旧復興や埼玉県に避難している方々の支援に継続的、かつ着実に取り組んでいきたいと思う。私たちの持っている底力をどうやって発揮するのかを関係する諸団体の皆さんとも一緒に考え実行して行きたいと思う。



また、この東日本大震災という未曾有の国難の中、第17回統一地方選挙が実施された。自粛を迫られる難しい選挙だったが、日本の復興を成し遂げるために極めて重要な選挙であり、市民生活の安定と地域経済の発展、そして復興支援を新たな課題として地域がなすべき政策をしっかりと議論する選挙でもあった。構成組織・加盟組合・各地域協議会の協力で一定の成果を収めることができたことに感謝する。私たち連合埼玉は勤労者・生活者の視点で行動できる議員や候補者を応援していきたいと考えている」と、力強く訴えた。

続いて、来賓の上田埼玉県知事をはじめ、福祉事業団体、地元市長、民主党それぞれの代表から挨拶をいただいた。来賓、祝電・メッセージの紹介後、メーデースローガン(案)を女性委員会の神田弥生さんに、メーデー宣言(案)を青年委員会の梶原健太さんが提案し、参加者の拍手で採択された。

最後に約5,600名の力強い「団結ガンバロー」で終了した。



宮本重雄
連合埼玉会長



上田清司
埼玉県知事



清水勇人
さいたま市長



吉沢邦雄
中央労働金庫埼玉県本部本部長



山根隆治
参議院議員



司会: 佐藤道明事務局長



司会: 女性委員会・吉川和美さん



ザ・ニューズペーパーショー



応援メッセージ



ゴセイジャーと握手!



メーデー宣言 青年委員会: 梶原健太さん

第82回 埼玉県中央 メーデーフォト



メーデースローガン 女性委員会: 神田弥生さん

出展



風評に負けるな!
茨城県産野菜販売



バルシステム埼玉



ドリンクコーナー



中央労金・全労済



埼玉県物産観光館

会場



双葉町の
子どもたち



団結ガンパロー



連合埼玉推薦議員のみなさん

本庄・児玉郡地協メーデー

■日 時:2011年4月30日(土)10:00~12:00

■場 所:本庄市役所

■参加者:約380名

■式典、抽選会、デモ行進

■今回の地協メーデーは、震災や計画停電の影響などで加盟労組が振替出勤になるなど、昨年よりも参加人数が大きく減少しました。実行委員会では、行事内容に関して色々な意見が出ましたが、抽選会は予定通り行い、被災地の特産品を中心とした景品を用意しました。デモ行進では、連合のスローガンである「つながろう日本」をメインに震災復興を町の人々にアピールしました。



地域メーデー開催模様

北埼玉地協メーデー

羽生部会

■日 時:2011年5月1日(日)10:00~

■場 所:小松南公園

■参加者:350名

■式典、抽選会



行田部会

■日 時:2011年5月1日(日)9:30~

■場 所:県立さきたま古墳公園

■参加者:280名

■式典、輪投げ大会・ビンゴ大会

■朝から小雨が降る中、各部会幹事による準備から司会・運営、撤収と滞りなく開催出来たことに感謝致します。

当日は日曜日ということもあり、お子さん連れの参加者が例年より多く感じました。

本多平直衆議院議員をはじめ加須・羽生市議の方も来賓として参加していただき、各単組組合員とご家族にも活動報告と取り組みについて伝えることが出来る、大切な地協(部会)メーデーであると再確認することが出来ました。

各部会の第二部は、自粛することなく開催しました。笑顔が溢れ、皆さん楽しく過ごしてくれたと感じます。



～構成組織のトップによる「男女平等参画推進宣言」～

諸先輩方の多くの苦勞と弛まぬ努力により様々な分野で男女の平等が進んできました。私たちはその想いをしっかりと引き継ぎ、真の男女平等参画社会の実現のためさらに取り組みを強めていくこととします。

JP労組埼玉連絡協議会 議長 関口 聡



Volunteer report

東日本大震災救援ボランティアレポート

3月11日(金)14時46分、東北地方太平洋沖地震を発端に、震災・津波・原子力発電所事故と東日本は未曾有の大災害に襲われた。

連合本部は3月14日、災害対策救援本部を立ち上げ、政府および関係機関と調整を開始し、連合埼玉も災害対策本部の設置と災害救援ボランティアの派遣などについて確認した。

今回は広域災害という状況もあり、連合救援ボランティアは構成組織主体で組織され、3月31日の第1次以降、現在の第7次まで、毎回300名規模を7つのベースキャンプで瓦礫撤去や炊き出しなどの救援活動を行っている。

関東ブロックでは、4月7日に発生した余震により延期されていた地方連合会専従者を主体とした福島チームに参加を確認し、連合埼玉からは6月27日までの第11次まで、災害救援ボランティア登録者を含め、第7次(政策フォーラム開催のため)を除き毎回1名を派遣する。

5月2日(月)から再開した福島チームは、当初いわき市での活動を予定していたが、現地の要望により、急遽「会津若松の物資支援と郡山を拠点とする炊き出し」へ内容が変更された。

救援ボランティアと言えば、津波被害による被災地での瓦礫や泥などの撤去作業に視点が当てられがちである。しかし、救援物資の仕分けや管理、食材の下ごしらえ作業は地道ではあるが、被災者(避難者)皆さんの衣食住を下支えする非常に重要な作業であり、生命に関わる支援といっても過言ではない。関東ブロック派遣参加者は、自信と達成感を持って次の班へ支援の襷をつないでいる。



5月10日から5月18日まで、福島県にて救援ボランティアに取り組んできました。

福島県猪苗代町の会津ベースキャンプを拠点として、11日から郡山市、田村市、いわき市で、炊き出しと食材準備などを行ってきました。

震災から2ヶ月たっていますが、今回の地震の規模の大きさから、未だに食事情が改善できず、厳しい日々を過ごされている方が多くいます。わたしたちの仕事は、一日一食でも暖かいものをお届けすることです。最終日のクリームシチュー作りでは、おばあちゃんが恥ずかしそうに、「とってもおいしいです。おかわりいただけますか。」と仰っていただき、こんな私でも微力ながら役に立つことができるのだと感じました。ボランティア活動へのニーズは日々変わっていきませんが、命をつなぐ一杯の活動を、次の派遣団、またその次の派遣団へとつなげていくことが大変重要であり、できるだけ多くの方に支援にいらしてほしいと思います。救援のためであることはもちろんですが、同じ日本に生きるものとして、こういうことが起こったということ、自分の目で観て、1人ひとりが何ができるのか考えていくことが必要だと実感しました。

<連合埼玉・副事務局長 山本 洋志>



～構成組織のトップによる「男女平等参画推進宣言」～

男女が互いに人権を尊重し仕事と生活の両面で責任を分かち合い、個性と能力を十分発揮することができる男女共同参画社会の実現に向けて、意識の改革と高揚につながる活動を取り組みます。

埼玉県電力総連 会長 永井 啓介

～やる気のスイッチを入れよう 自分を知り、仲間を知る～

連合埼玉女性委員会主催：「女性のためのSTEP UPセミナー」

5月17日(火)さいたま共済会館504会議室にて女性委員会主催の「女性のためのSTEP UPセミナー」が開催された。本セミナーは、女性が職場や組合活動の中で、より活躍できるようステップアップし、あらゆる分野での女性の参画を推進することを目的として、5月(基礎編)と9月(応用編)の2回実施している。今回は、大小原利信先生(ラポール企画)による「やる気のスイッチを入れよう」というテーマでの体験型のセミナーで、女性が戸惑ったり、悩んだりしながら仕事や組合活動が続けていく中で、お互いのコミュニケーションを深め、自分や仲間を深く知ることで自分自身のモチベーションを上げ、更に自分自身が仕事や組合活動にどのように関わっていくのかを見つめなおす大変有意義な場となった。

開会にあたって、連合埼玉女性委員会横山委員長より、「制度はあるけれども、使いにくい雰囲気があるというような声もある一方で、男女の意識も以前に較べると随分と変化していきていると感じる。そのことを踏まえ、今後の男女のあり方を考えながら組合に関わって欲しい。本日は、自分自身を見つめなおす場としてこのセミナーに参加してもらいたい」との挨拶があった。

その後、連合埼玉を代表し宮本会長からは、「昔は女性の活躍する場が与えられていなかったが、今は女性の社会進出がすすんできたと感じている。もっともっと活躍する場があつていいと思う。将来的には、女性委員会が必要なくなるような男も女も関係ないという世の中になってもらいたい。みなさんにはもう暫くの間、頑張ってもらいたい」との激励の挨拶をいただいた。



参加者のみなさん

セミナーの第1部は、「自己理解・他者理解を深めよう!」ということで、3つのグループに分かれてジェスチャーだけのコミュニケーション(パースデーリング)やいいところ探し(SK法)を体験した。講義だけでは、参加者がお互いに話しをするこ

とはほとんど無いが、この体験学習により、短時間でお互いを知ることができ、信頼感や安心感が醸成され、グループ内のコミュニケーションが円滑になった。このような方法を知ることができて良かったという参加者の声が聞かれた。また、お昼休みの時間も会話が絶えない、楽しい雰囲気のセミナーとなった。



講師:大小原 利信氏



セミナーの様子

第2部は、「自分自身が輝くための第1歩を踏みだそう!」をテーマに「ジョハリの窓」を学び、その後、参加者全員で輪となって組合活動や仕事をしていて困ったことやお互いに聞きたいことなどを自由に話した。その後「お子さんがテストで100点を取ってきたらなんと声をかけますか?90点だったらどうしますか?」という問いかけに始まる講義で、承認することの大切さを学びました。最後に、午前中のグループでセミナーの振り返りを行い、気づいたことや感じたことなどを発表しあった。

全体を通して明るく楽しい雰囲気で、参加者からも楽しかった、職場に帰ってこのセミナーのことをみんなに伝えたい、応用編のセミナーにも参加したいなどの声も聞かれ、コミュニケーションによる人とのつながりを持つことができた大変有意義なセミナーとなった。

〈女性委員会・事務局長 上杉 裕子〉



2011年度 組織拡大集中行動実施中



5月16日(月)～6月17日(金)

連合埼玉は、5月16日～6月17日の1カ月を2011年度「組織拡大集中行動」期間として組織拡大の取り組みを行っています。この期間においてNACK5のCMや新聞折り込み、地域協議会による駅頭活動などの広報宣伝活動を行うとともに、ユニオンアドバイザーによる組織拡大オルグを実施しています。

安心して働きたい

なんでも労働相談ダイヤル 0120-154-052

連合埼玉 9:00～17:30(土日祝はお休みです) http://rengo-saitama.jp

こんなときは、すぐお電話ください

なんでも労働相談ダイヤル(フリーダイヤル) 0120-154-052

日本労働組合連合会(連合) 全国に100以上の労働組合が加盟している労働者のためのフリーダイヤルです。

全国一斉労働相談 6月9日(木)～10日(金) 10:00～19:00

広報活動

- ①NACK5 5月17日～6月3日 16:00前後
- ②新聞折り込み 5月30日(月)熊谷市、深谷市、本庄市、秩父郡・市 計27万部
- ③チラシの配布(駅頭・住宅地等) 5月16日(月)～6月3日(金)のゾーンで実施



～構成組織のトップによる「男女平等参画推進宣言」～

情報労連は、「人にやさしいコミュニケーション社会」づくりを通じて、男女平等参画社会の実現を目指し、地域や職場、家庭で人と人とが情報を共有して、男女が共に理解し支え合う共生の社会づくりに取り組みます。

情報労連埼玉県協議会 議長 中沢 範夫

2011年度 連合埼玉「男女平等月間」の取り組み

目的	連合埼玉は、男女平等参画社会に関する組合員の理解を深め意識を高めることを目的とし、本年度は次の取り組みを6月の期間に実施します。
実施期間	平成23年6月1日(水)から6月30日(木)
連合埼玉の取り組み	①男女平等参画推進及び男女平等月間のアピール ②「男女平等参画推進トップセミナー」の開催 ③男女平等参画推進「標語」を活用し、グッズ(メモ帳)の作成 ④「男女平等参画推進に関する実態調査」実施中



= も う す ぐ 選 挙 =

毛呂山町議会議員
選挙

◆岡野 勉 (おかの つとむ) 55才(社民党・現3期・連合埼玉推薦4回目)
告示日:2011年8月16日(火) 投票日:2011年8月21日(日)

現在予定される6月の日程表です

6月		行事等	
		連合埼玉・事務局	地協・産別・労福協・福祉事業団体・県・上部・外部団体
1日	水		①「埼玉高齢者雇用推進委員会」「シニアワークプログラム検討推進委員会」 「シニア就職支援プログラム検討推進委員会」(9:30~埼玉労働局) ②北方領土返還要求埼玉県会議「第1回役員会・総会」(13:00~あけぼの502) ③川越・西入間地域協議会幹事会(18:30~川越西文化会館)
2日	木		第8回秩父地域協議会幹事会(18:15~勤労者福祉センター)
3日	金		
4日	土		
5日	日		蕨市議会議員選挙投・開票
6日	月		
7日	火	①第7回四役・執行委員会(10:00~13:00~ときわ会館) ②青年委員会第6回幹事会(17:00~)	
8日	水		労働局との意見交換会(10:00~労働局)
9日	木		
10日	金	第10回シニア連合代表者会議(13:00~あけぼのビル501)	
11日	土		①第23回埼玉教職員組合定期大会(9:30~嵐山町国立女性教育会館) ②川越・西入間地域協議会代表者会議(13:00~坂戸文化会館)
12日	日		
13日	月		
14日	火	第1回メンタルヘルスセミナー講演会・研修会(10:00~13:00~17:00 プリランテ武蔵野)	社会保険診療報酬支払基金幹事会(14:30~)
15日	水		①「労働運動・労働福祉運動の理念・歴史講座」(13:00~17日・東I総合研修センター) ②緑のトラスト表彰式(13:45~知事公館)
16日	木	埼玉労働局合同就職面接会(13:00~16:00・大宮ソニックシティ)	
17日	金	ネット21「第2回運営委員会」(10:00~連合埼玉会議室)	
18日	土		
19日	日		
20日	月	①第3回広報委員会(16:00~連合埼玉会議室) ②教育プロジェクト(10:00~連合埼玉会議室)	
21日	火		埼玉労福協企画委員会(14:00~ときわ会館)
22日	水	男女平等参画推進委員会主催「トップセミナー」(13:30~さいたま共済会館601会議室)	
23日	木		①中央労金埼玉第2回運営委員会(10:00~県本部) ②平和行動in沖繩(~6/25)
24日	金		①埼玉労福協理事会(10:00~ときわ会館) ②ときわ会館理事会(13:00~ときわ会館)
25日	土		
26日	日		
27日	月		
28日	火		①第6回「男女平等講座」男性リーダー(10:00~総評会館) ②中央労金第11回通常総会(13:00~中野サンプラザ)
29日	水	東日本大震災義援金カンパ(18:00~19:00・浦和駅)	川口・戸田・蕨労福協合併総会
30日	木		

あけぼのビル

事務局長 佐藤 道明

3月11日に発生した東日本大震災から3カ月になろうとしている。あらためて、思いもよらぬ災害で人命を奪われた犠牲者に、心からの哀悼の意を表するとともに、この大地震・大津波で被災されたすべての被災者と福島第一原子力発電所の事故により避難を余儀なくされた方々など、被害に遭われた方々に心からのお見舞いを申し上げる。

◆被災地へのボランティア派遣

連合埼玉は震災発生以降、被災地・被災者への支援活動に取り組んできた。今回はその取り組みの一部を報告する。被災地でのボランティア活動は、構成組織を中心に行われているが、当面5月2日から6月末までの間、連合関東ブロック連絡会の一員として7泊8日のボランティアに事務局を中心に参加をすることとしている。福島県猪苗代町にある会津ベースキャンプを拠点に、炊き出し・支援物資の配給作業に加え、泥だし・がれきの撤去などの活動となっている。

一部の組織からは、がれきの撤去作業のつもりで参加したにもかかわらず、7日間すべてが炊き出しで終わったと不満の声も上がっているが、連合埼玉から派遣をした事務局の面々が、「ボランティアの内容は自分たちで選ぶのではなく、被災地の必要性によって決まるもの、炊き出しも重要な作業だ」と言ってくれたことに心強く感じた。

◆県内避難者への支援活動

一方、埼玉県には震災に伴い2,422人が避難している(5月16日現在、埼玉県調べ)。代表的な避難所は、加須市にある旧県立騎西高校に避難している福島県双葉町の1,066人である。連合埼玉は4月29日に開催した第82回埼玉県中央メーデーの子ども向けアトラクションと東武動物公園に双葉町の親子を招待した。この取り組みに際し、多くの組織に協力を戴いたことに、あらためて感謝を申し上げる。

また、メーデーでは東日本大震災復興支援カンパを実施し、メーデー参加者の協力で785,206円のカンパ金が集まった。模擬店の売り上げ金274,450円をあわせて1,059,656円の支援金となった。この支援金は県内の避難者支援に充てることを確認している。

◆ニーズ調査と物資提供

5月23日、木村副事務局長と県内にある避難所7カ所を廻り、避難所の現状把握と必要な支援物資について聞き取りを行った。今回訪問した避難所は集団生活で1施設に避難す

る人数が比較的少人数の避難所である。具体的に支援を依頼されたのは4カ所で、熊谷市に避難されている南相馬市と浪江町の12人、幸手市と杉戸町(2施設)に避難されている富岡町の81人であった。避難所の中を見学させて貰ったが、避難者が減りスペースに多少余裕がある避難所もあったものの、1人のスペースは概ね一畳、冷暖房がない施設もある。食事は弁当等の配給やボランティアの炊き出しで対応している施設が一般的であるが、富岡町民81人中37人が避難している幸手市の施設では、週に4日は町民が当番制で自炊をしており、他の避難所と比べ、何か活力のようなものを感じた。

また、避難所の立地条件によってボランティアや支援物資の量も変わり、避難所に入所した頃は、支援物資も豊富であったが徐々に減りつつある。さらに新しいニーズも発生しており、小規模の避難所では支援物資不足が発生している。直接話ができた南相馬市の2人、富岡町民の12人、富岡町役場の職員3人から、不足している日用品等の要望を聞き支援することを約束した。直接話しができた皆さんは明るく対応してくれたが、避難生活による疲れは隠すことはできない。避難所を後にする際、何か気の利いた言葉を掛けようと考えたが言葉が出てこない。結果して発した言葉は、頑張っている人に対し「頑張ってください」と、ありがたきことしか言えなかった自分が情けなく思えた。

夕方、連合の事務所に戻り、約束した支援物資を明日にでも届けたいとの思いから、買い出しに走り廻った。24日、4施設に再訪問し、直接避難者の皆さんに支援物資を手渡すことができた。日常生活において当たり前の日用品が、避難者の皆さんには貴重品であり、また、要望を聞き翌日には対応してくれたと、皆さんから感謝された。訪問の時期が遅れた感はあるものの、直に皆さんから必要な物資を聞くことができ、それに応えることができたことは、満足感と言うより、良い体験と勉強させて貰ったという気持ちが強い。

県内には今回訪問した施設以外にも同様な避難所が複数あることから、早急に訪問しニーズ調査を行っていききたい。組合員の皆さんから寄せられたカンパ金を、県内に避難されている皆さんへの支援金として、今後も有効かつ迅速に活用することを約束する。

4避難所への支援物資

- 夏物衣類(大人用) 71点
- 夏物衣類(子ども用) 24点
- 日用品(茶、コーヒー、紅茶、シャンプー、リンス、歯磨き粉、食器用洗剤、蚊取り器他) 149点
- サングラス 26点

2011.5.27